

日臓ネ第 28-309 号

平成 29 年 3 月 1 日

厚生労働省健康局難病対策課  
移植医療対策推進室  
室長 井内 努 殿

公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク  
理事長 門田 守人



「指示書」(平成 29 年 1 月 27 日付け厚生労働省発健 0127 第 5 号)  
における報告期限の延長について

#### 記

日本臓器移植ネットワークは 1 月 27 日付の厚生労働大臣からの「指示書」に従い、2 月 14 日に第三者による調査チームを設置し、今般のあっせん誤りについての原因究明と再発防止策の検討を行っていただいている。

日本臓器移植ネットワークとしては、あっせん誤りについて重く受け止め本チームに対し迅速な調査を要請している。また、第三者調査チームにおけるあっせん誤りの原因究明と再発防止策の検討は今後、二度と同じ間違いを起こさないためにも非常に重要と考えている。このため、期間が不十分な中で精査が十分に行われない事態が起きることは、この調査チーム設置の期待するものとはかけ離れている。

今般、第三者調査チームから別添のとおり調査期間の延長について提案されていることから、調査チームが必要な検討を行うまでの間、報告書提出の期間延長を要望する。

以上

平成 29 年 3 月 1 日

公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク  
理事長 門田 守人 殿

あっせん誤りに関する第三者調査チーム  
委員長 江川 裕人

新システムによるあっせん誤りについての原因究明  
及び再発防止策の提言における「報告期限の延長」について

記

1月27日付で厚生労働大臣から指示書が発出され、それに則って、2月14日に日本臓器移植ネットワークが第三者調査チームを設置した。調査チームでは2月末日を目途に新システムによるあっせん誤りの原因についての検証と再発防止策の提言を行うこととされ、現在、今回の心臓のあっせん誤り事例について検証を行っている。

あっせん誤りの重要性に鑑み、迅速な調査の必要性は、第三者調査チームとしては十分に理解し、努力している。あっせん誤りはE-VASシステムのプログラムエラーが原因であるため、E-VASシステムのテスト方法とその運用方法に焦点を当てて検証を行う予定であったが、2度とあっせん誤りを起こさないような再発防止策を提言するためには、契約から実運用に至るまでを俯瞰し、関係者（特にJOT）のシステムに関する能力・理解度、NECネクサソリューションズ株式会社とJOTのコミュニケーションの実態についても把握し、問題点を検証しなければ実効性のある報告書が作成出来ないと調査チーム委員より提案があり、その結果調査範囲が当初の予定より拡大した。

現在、迅速な対応を行うため各委員は精力的に資料要求と精査を行っているが、委員長として調査期限の延長を求める。